

先生の魔法

クラチャト・ポリブンナンクン

技術が進歩している世界で、我々は便利にインターネットで友達に連絡やネットショッピングができるようになり、自分自身で何でも興味がある勉強ができるまでになりました。現在は SNS で「先生などいないのでは」という意見まで投稿されています。しかし、先生なしに自分だけで成功することは、難しいです。

医者や教師の役目が患者の「命を守る」ことだとしたら、先生の役目は学生の「夢を応援する」ことではないでしょうか。昔から、タイの伝統的な教えで、「先生は第二の親である」という言葉があります。実際に先生は親のようにたくさん助けてくれました。私の知識を広げてくれただけでなく、人間としてどうあるべきかも教えてくれました。先生が私の世界を広げてくれたことによって、私は先生になる夢を持つようになりました。

現在、国によっては、進学できる人もいれば、学費が払えなく勉強を辞める人もいます。これは世界的な問題となっていて、特に孤児ではそれが顕著です。[2019年12月のニュースによると、タイではコロナウイルスで両親が亡くなったことで、学校で学べない児童が増えて、43万人に達しました。]このような状況を変えるために、私は先生になった後に、タイ人と外国人の教師を集め、一緒に財団や無料のラーニングセンターを立ち上げ、その子が描いている将来を応援したいと思っています。孤児の問題を全て解決することはできませんが、先生は「子供の可能性を開花させ、それによって世界を変え得る」魔法を持っています。

入学の前には、「何になりたいか」と聞かれたとき、私ははっきりと答えられませんでした。でも、今は学生の夢を応援する先生になりたいと思っています。時間が経つにつれ、先生に対しての価値観が変化したとしても、私の夢は揺らがないでしょう。たとえ先生が「縁の下の力持ち」のような存在であったとしても、先生の持つ魔法によって、夢をあきらめちゃう子供を減らし、教育制度を整えることで彼らの可能性を広げたいです。それは私が未来で、先生として最高の人生を生きることです。

これでスピーチを終わりにします。ご清聴ありがとうございました。